

知ってる？

活用してる？

学校図書館！

今回は、「人間尊重の教育」につながる活動例や2学期に取り組める活動例を中心に紹介します。



「人間尊重の教育」の推進につながる、**子どもが「育つ」取組**に  を示しています。

学校図書館の機能と役割 **読書センター**



活動の目標

- ・より多くの子どもが学校図書館に関わる機会とする。
- ・様々なジャンルの本に触れ、読書の幅を広げることで、豊かな読書体験につなげる。
- ・図書委員（局員）が、学校図書館の利用推進に関わる意欲を高める。

図書委員会（図書局）

「読書週間の取組」

活動例

- 1 図書委員会（局会）で、読書週間のねらいを学び、活動の分担をする。
- 2 読書への意欲を高めたい子ども向けの、学校図書館に足を運びたくなる「借りた冊数スタンプラリーカード」と、日常から読書に親しんでいる子ども向けの、普段読まないジャンルの本に触れる「分類別スタンプラリーカード」の2種類を作成する。
- 3 校内放送やポスター等で、全校に読書週間の取組を呼び掛ける。
- 4 読書週間中に達成した子どもを表彰し、校内放送で紹介する。
- 5 読書週間中の貸出し結果から、人気の高かった本の紹介POPや、貸出しの少なかった分類の本のおもしろさを伝えるポスターを作成し、掲示する。

「借りた冊数スタンプラリー」



「分類別スタンプラリー」

MEMO

- ・読書週間に貸出し冊数を増やすことも、意欲を高めることにつながります。
- ・蔵書配分の少ない分類（哲学や産業等）については、まとめるなどの調整も可能です。
- ・2種類のスタンプラリーは両面に印刷し、子どもが自由に選択できるようにします。片面を達成した際には、もう一方にも挑戦できるようにすると意欲が高まります。

学校図書館の機能と役割 **情報センター**



活動の目標

- ・図書委員（局員）が中心となり、テーマに沿った図書を探し、効果的な展示を考える。
- ・多様性の理解に関連した内容の図書に触れ、他者理解・相互承認についての理解を深める。

図書委員会（図書局）

「みんな違って、みんな楽しい！ パラスポーツから多様性を考える」

活動例

- 1 図書委員（局員）が、図書館担当の先生や学校司書のアドバイスを参考に、学校図書館内にあるパラスポーツや障がい、福祉、多様な生き方に関連した図書を選び、展示する。
- 2 パラスポーツの競技の特性やルールについて調べ、クイズ等も交えた紹介POPを作成し、展示図書と共に掲示する。
- 3 パラスポーツ（ボッチャなど）のセット等があれば、体験コーナーを設営する。
- 4 昼休みの開館時に、図書委員（局員）が「パラスポーツ体験イベント」を運営する。（写真はボッチャ体験）
- 5 来館者に、展示図書以外にも関連図書を紹介するレファレンスサービスが利用できることを周知する。



MEMO

- ・相手を尊重したり、理解したりしながら、誰とでも楽しめるスポーツを体験することで、子どもの多様性への関心が高まります。
- ・障がい者スポーツや、福祉の内容に偏ることのないように、教職員や学校司書が関わりながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する相互承認の観点で図書を展示すると効果的です。
- ・オリンピック・パラリンピック教育の推進と組み合わせることも考えられます。



活動の目標

- ・調べたい事柄を自分で決めて必要な情報を探し出す。
- ・目次や索引を利用して、必要な情報を抽出する視点を学んだり、友達と共有したりする。



小学校3年生 国語科

「『すがたをかえる大豆』 ～必要な情報の集め方～」

活動例

- 1 自分が調べたい食材の変化についての紹介文を書くという目標をもつ。
- 2 学校図書館で調べ、学習に必要な図書を自分たちで探し、教室近くの廊下の長机に平置きにして、誰でも手に取れるようにする。
- 3 学級全員で「3分間本の読みまわし」を行い、食材ごとに色を決めてみんなで付箋を貼り、情報量の多い本の大切な部分を一目で理解したり、脚注の情報に目を向けたりして、何が必要な情報か考える。
- 4 付箋の貼られた図書を見て、自分の調べたい食材の調査ができる場合は、どの本で調べられるかを考えて情報を集める。自分の考えた食材の調査が難しい場合には、付箋の情報から新たに食材を決めて情報を集める。
- 5 調べたことを基に、自分の選んだ食材の変化についての紹介文を書く。



MEMO

- ・子どもは自分たちの選んだ本に興味をもつので、廊下に平置きにすると、朝読書等でも自発的に読むことが期待できます。
- ・同じ食材を取り上げる友達と情報を共有できるので、子どもは安心して活動できます。
- ・市立図書館から学校単位で図書を借りることも可能です。



活動の目標

- ・興味をもったことや疑問に思ったことを学校図書館の資料を活用して自ら進んで調べる。
- ・学習に使用する資料や、学習の成果物等を蓄積し、自らの学習に活用する。



中学校2年生 総合的な学習の時間

職業体験学習 「働く人の夢、願い」

活動例

- 1 職業体験学習の探究課題のテーマを「働く人の夢、願い」として、学習の流れや目標を確認する。
- 2 自己の将来や働くことの意味についてグループで交流する。
- 3 職業体験活動を行う事業所に関する図書資料やWebサイトを活用して、体験する職業について調査し、おもしろそうところや課題、難しそうところを考え、質問したい内容についてまとめる。
- 4 事業所で体験活動・質疑応答を行う。
- 5 体験した内容や質問事項を整理し、事前に調べたことも参考にしながら、「働く人の夢、願い」を個人レポートとしてまとめる。



MEMO

- ・ICTと一緒に活用することで、学級ごとにローテーションをして学校図書館を活用できます。
 - ・寄託図書や市立図書館から学校向け団体貸出で図書資料を手配すると学校図書館内の蔵書と合わせて活用することができます。
 - ・司書教諭や学校司書と相談し、パスファインダー※を作成することで子どもが効率的に調べることができます。
- ※パスファインダーとは、path（小道）とfinder（発見者）の複合語で、ある特定のテーマ（主題）に関する資料や情報を収集する手順を簡単にまとめたもので、図書館で効率的に探している資料を見付けることができるツールです。（札幌市の図書館HPより）

こんな学校図書館が子どもの学ぶ意欲を高めます！

「本の福袋」

～子どもの読書の幅を広げる工夫～



夏休みや冬休みに合わせた長期貸出しの利用を増やすアイデアです。2冊程度の図書を袋詰めして貸し出します。福袋の中にどのような本が入っているか、開けてみてのお楽しみ。子どもはワクワクしながら手に取っていきます。

本の福袋を借りた子どもからは「自分では選ばない本を読む機会になった」、「図書館におもしろい本があるのに知らなかった」など、初めての本との出会いに前向きな感想が寄せられました。

貸出し方法の工夫が子どもの読書の幅を広げ、読書意欲を一層高めます。

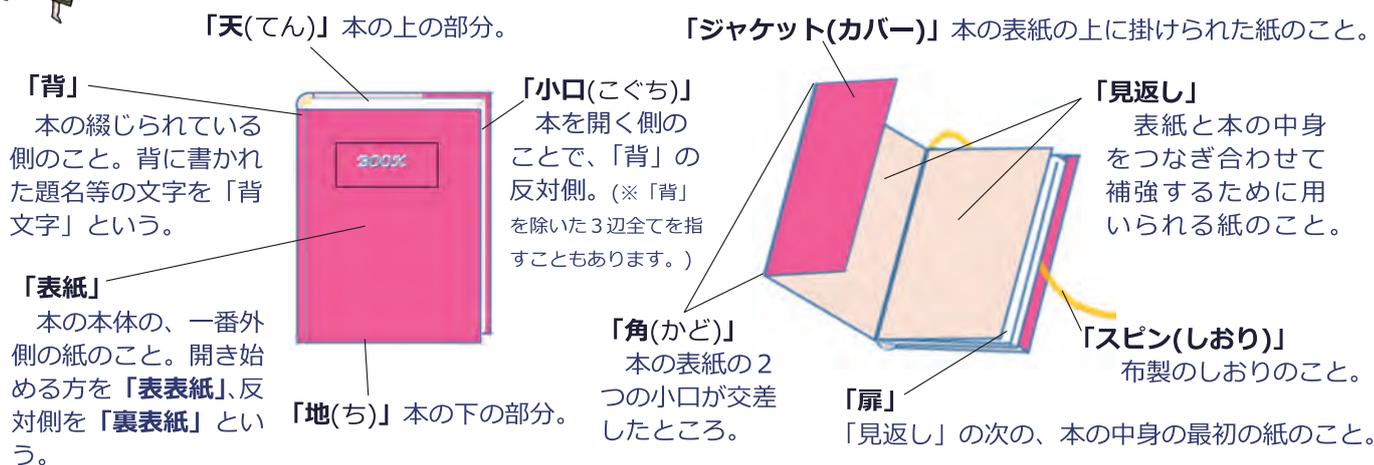
※それぞれの福袋にテーマを決めて、分類番号の違うテーマに関連した内容の本をセットにしておく、様々な図書に触れるきっかけになります。

※セットごとにタイトルとバーコードを印刷して、別に用意しておく、貸出しもスムーズです。



本の部分の名称

本の各部分の名称と説明を、一部ではありますが、下に示しました。



第3号では、「人間尊重の教育」につながる、ボッチャ(パラスポーツ)を活用した多様性への理解を深める取組や、キャリア教育、教科指導、子どもの読書への意欲を高め、読書の幅を広げる取組など、学校図書館活用に関わる様々な例を掲載しています。



＜編集・発行＞ 札幌市教育委員会 学校図書館活用リーフレット作成委員会

令和4年7月

作成委員 安部 史絵(平岸高台小学校)

目黒 麻衣(山の手小学校)

吉田 卓矢(指導主事)

佐藤 沙織(平岡中学校)

渡辺 智広(開成中等教育学校)

三浦 裕子(指導主事)